



京大広報

No. 535

1999. 5



目次

大学の動き	日誌	696
部局長の交替	訃報	696
平成11年度国立学校施設整備事業の決定	資料	
部局の動き	平成11年度入学試験諸統計	699
大学院生命科学研究科の設置	話題	
大学院生命科学研究科入学式	クラブ紹介 - 馬術部 -	703
栄誉	お知らせ	
夫馬 進教授が恩賜賞・日本学士院賞を、	平成11年度創立記念行事音楽会	704
入谷 明名誉教授、佐々木丞平教授が		
日本学士院賞を受賞		
694		

大学の動き

部局長の交替

防災研究所長

今本博健防災研究所長の任期満了に伴い、その後任として池淵周一防災研究所附属水資源研究センター教授（地球規模水文循環研究領域）が5月1日防災研究所長に任命された。任期は平成13年4月30日までである。



平成11年度国立学校施設整備事業の決定

平成11年度国立学校施設整備事業のうち、本学関係分は次表のとおりである。

示達	事業名	構造・階	面積	備考
1次	(理)校舎	SR 8-1	7,780m ²	(凡例) SRは鉄骨鉄筋コンクリート構造 8-1は地上8階、地下1階
1次	(法・経他)総合研究棟(仕上I)	SR 8-2	8,900m ²	
1次	(医病)基幹・環境整備	—	—	

部局の動き

大学院生命科学研究科の設置

平成11年4月1日大学院生命科学研究科が設置された。平成6年に設置された「生物・生命科学研究科構想専門委員会」は、生命科学独立研究科の構想を検討してきた。従来、理学、農学、医学、薬学領域等の生命科学関連分野で養成されてきた人材は、それぞれの領域で独立的に今日の社会の発展に大きく貢献してきた。しかしながら、本研究科は、総合的に生命科学を理解し、21世紀の人類社会を支える人材の養成をめざし、以下の3つの特徴を有している。

- (1) 世界最高レベルの新しい生命科学が推進できる人材の養成。
- (2) 新しい生命科学を駆使し地球環境保全と人類の

福祉と幸福をめざす人材の養成。

- (3) 生物が示す多彩な生命現象を高次機能として捉え、その高次機能を追求する人材の養成。

本研究科では、上に述べた人材の養成と、その基礎となる「生命科学」の確立を目標として、以下の2専攻を設置している。

- (1) 統合生命科学専攻は、全ての生物に存在する普遍的な要素である遺伝子の動態継承と細胞機能の特異性決定の基本機構、多細胞体構築の制御、一個の細胞からなる完全なる個体を発生する細胞全能性、さらには発生した個体が多様な環境に適応する過程で獲得した複合生物系構築ならびに生物の環境応答制御の分子機構の解明に関する教育と

研究を行う。

- (2) 高次生命科学専攻は、生命体の認知と情報統御のメカニズム、高次生命体の構築機構のメカニズム、ならびに種々の因子による細胞の増殖機構、免疫系の認識機構等の生体の基本的な応答メカニズムの基本原理の解明に関する教育と研究を行う。本研究科では大講座制がとられており、教育・研究組織と入学定員は次表のとおりである。構成は、理学研究科（6分野）、農学研究科（6分野）、医学研究科（3分野）、薬学研究科（2分野）、総合人間学部（1分野）、ウイルス研究所（1分野）からの

移行と振替等による9基幹講座（19分野・連携1分野）である。これに協力講座として3講座（6分野）が参加し、5年の年次進行で発足。本研究科の教官は、それぞれの部局との協議により、学部を兼担して学部教育にも参加する。

以上のように、生命科学はまさに分子・細胞レベルから生命・複合システムを統合的に理解し、21世紀における人類の福祉と幸福、さらに他の生命体と共存する新しい社会の構築を担っている。生命科学研究科の教育・研究棟等については、当面吉田キャンパスにおいて、施設整備の充実を図りたい。

専攻名	講座名	入学定員	
		修士課程	博士後期課程
統合生命科学	遺伝機構学 多細胞体構築学 細胞全能性発現学 応用生物機構学 環境応答制御学 形態形成学（協力講座） 細胞機能動態学（協力講座）	37人	17人
高次生命科学	認知情報学 体制統御学 高次応答制御学 高次生体統御学 高次生体機能学（協力講座）	31	14
学生定員計		68	31

（注）博士後期課程は平成13年度から学生受入れ

（大学院生命科学研究科）

大学院生命科学研究科入学式

今年度設置された大学院生命科学研究科の入学式が、4月19日（月）午後2時から、京大会館において挙行された。

入学式は、学歌斉唱（京都大学グリークラブが協力）に続いて、古澤 巖副学長から「新入生歓迎のことば」があり、午後2時20分に終了した。

今年度の入学者数は次表のとおりである。

専攻名	修士課程	
	入学者数	外国人留学生
統合生命科学	42人	1人
高次生命科学	28	1
計	70	2

（注）外国人留学生は入学者の内数



（大学院生命科学研究所）

栄誉

夫馬 進教授が恩賜賞・日本学士院賞を，入谷 明名誉教授， 佐々木丞平教授が日本学士院賞を受賞

このたび、夫馬 進教授が恩賜賞・日本学士院賞を，入谷 明名誉教授，佐々木丞平教授が日本学士院賞を，それぞれ受賞されることになった。

授賞式は，6月中旬日本学士院で行われる予定である。

以下各氏の略歴，業績等を紹介する。



夫馬 進教授は，昭和46年京都大学文学部史学科を卒業，同49年本学大学院文学研究科博士課程を退学，本学人文学部研究所助手，同54年富山大学人文学部講師，同56年同助教授，同62年本学文学部助教授

に転任，平成7年教授に就任，東洋史学第3講座を担当した。平成8年文学部の大学院重点化に伴い，大学院文学研究科教授となり，東洋史学の中国近世・近代史講座を担当，朝鮮史講座も兼担して現在に至る。

同教授の今回の受賞の対象となったのは、『中国善会善堂史研究』(同朋舎出版，1997年)である。

「善会」とは，慈善・公益事業を目的とする結社を総称し，「善堂」とは，そのための施設または事務局を置く建物を総称したものである。これらは，清代の中国各地に広く普及したものであり，そのことがまた世界的に見て注目すべきものであるにもかかわらず，これまで研究対象とされることは極めて

少なかった。同教授は，この未開拓の分野に挑み，十数年にわたる研究によって善会・善堂の全体像と具体的な活動を明らかにするとともに，その歴史的意義を明確にした。善会の始まりとしては，明代末期(16世紀末)に起こった同善会が重要であること，これは放生会(動物の救済)・掩骼会(無縁遺骨の収集)・救生船(水難救助)・育嬰会(捨て子の養育)・恤嫠会(寡婦の救助)などの善会の起こりと密接な関係を持つこと，また旧中国の都市での公益事業といえは，従来もっぱらギルドからの視点に限られていたのを善会・善堂からの視点に是正したこと，さらに『徵信録』と呼ばれる事業会計報告書を基礎資料として全面的に活用するに至ったことなど，本研究の大きな成果である。

以上，同教授の研究は，中国社会史に全く新しい視野を切り開くものであるとともに，未発掘の膨大な文献資料が山積する中国明清史の分野においても，歴史像の再構築として大きなインパクトを与え，その業績は中国はもとより国際的にも高く評価されている。

(大学院文学研究科)



入谷 明名誉教授は，昭和28年京都大学農学部農学科を卒業し，同33年本学農学部助手，同37年講師，同43年助教授を経て，同52年に教授に就任，家畜繁殖学講座を担当した。平成4年停年により退官

され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は，平成4年から近畿大学教授，同9年には近畿大学生物理工学研究所長を歴任し，現在に至っ

ている。この間，日本胚移植研究会会長，日本不妊学会理事長，国際受精卵移植学会理事，国際家畜繁殖学会副会長などの要職を歴任している。

同名誉教授の今回の受賞の対象となった業績は，哺乳動物，特にウシ，ブタ，ヤギ等の受精現象を解明し，それを体外で再現しうる実験系(体外受精技術)を確立したことにある。本来，哺乳動物の受精は体内で起こるものであり，それを体外で再現することは困難であった。特に，家畜類における体外受精系の確立は，家畜の増産と改良に寄与するところ

が大きく、技術確立が待望されていた。

同名誉教授はまず、受精が起こる環境（子宮や卵管）の液成分を詳細に検討し、体外受精に適した培養液の開発に寄与し、さらに動物の発情期に分泌される非透析性・熱感受性を持つたんぱく質が、卵子が受精する際に必要とされる受精能獲得と呼ばれる現象に密接に関与することを明らかにした。ついで、1977年及び1978年、ウシとブタ精子を子宮内で一定時間培養することにより、精子の受精能を誘起し、体外で卵子と培養することにより、世界初の体外受精に成功している。近年、家畜の体外受精技術は飛躍的發展を遂げ、畜産領域において重要な技術となっているが、これらはすべて、同名誉教授の研究の成果が発端となっている。その後、さらに研究の方向性を発生工学に向け、受精能力の低い精子を顕微受精と呼ばれる方法により卵子内に注入し、

1987年世界に先立ち産子の生産に成功している。この手法は、畜産分野に留まらず、医学領域の不妊治療に不可欠な技術として、広く世界中で応用されている。

以上のように、同名誉教授の研究は哺乳動物の生殖現象にメスを入れ、そのメカニズムを解明するとともに、この過程における人為的な操作を可能にすることによって、近年可能となった体細胞クローン動物の作出など、生殖工学と呼ばれる分野の基礎を築いた研究として、国の内外で極めて高く評価されている。

これら一連の研究に対して、昭和39年家畜繁殖学会賞、同61年西川畜産奨学財団功労賞、平成元年京都新聞文化賞、同7年日本農学賞、世界不妊学会基礎生物学賞、紫綬褒章、同10年日本農業研究所賞など多数の賞を授与されている。

（大学院農学研究科）



佐々木丞平教授は、昭和40年京都大学文学部哲学科を卒業、同45年本学大学院博士課程単位修得退学、京都府教育委員会文化財保護課、同47年文化庁文化財保護部美術工芸課、同文化財調査官を経て、

同56年京都大学文学部助教授、平成3年教授に就任、美学美術史学第2講座（美術史学）を担当した。平成8年文学部の大学院重点化に伴い、大学院文学研究科教授となり美学美術史学専修美術史学講座を担当し、現在に至る。

同教授の今回の受賞の対象となったのは、『円山應舉研究』（中央公論美術出版、1996）である。江戸時代中期に活躍した円山應舉（1733～95）は、写生を重視した新しい様式を樹立し、従来の伝統描法から近代絵画形式への展開の原点となった画家である。日本画家である正子夫人との共同研究である本書は、作家の作画活動とその背景的研究、作品資料及び文献資料の収集・調査と研究、描法・技法解析研究、落款印章照合研究による真偽判定と制作年代判定、画家の絵画思想の解明という、それぞれが密

接に関連し合う五つの研究をもとにして進められた應舉の総合研究である。殊に、絵画の描写を解析するために技法研究の成果を積極的に取り入れ、これを従来の美術史学の研究と合体させることにより、絵画の画面構成や構造を具体化したことや、描写表現と当時の思想との関係を豊富な文献史料をもとに分析して画家の絵画思想を明確化したことは、本書の大きな成果である。なお、本書の落款印章に関する研究では、落款印章の照合と分析にコンピュータ解析が適用され、これを客観化している。そして、これに経年変化という新しい概念を導入することにより、落款印章が絵画の真偽判定のみならず、作品の制作年代の推定にも絶大な威力を発揮することを実証したことも、今後の美術史研究を進める上で重要な成果といえる。

以上、日本美術史、なかでも18世紀を中心とする文人画と写生派の絵画についての長年の業績を反映させた同教授の研究は、日本近世絵画史上きわめて重要な画家である円山應舉の全体像をはじめ明らかにしたものと高く評価されており、上述の書は平成9年に國華賞を授与されている。

（大学院文学研究科）

日誌

1999.3.1 ~ 3.31

- | | | | |
|------|--|-----|--|
| 3月2日 | 同和・人権問題委員会 | 12日 | 放射性同位元素等管理委員会 |
| 3日 | 核燃料物質管理委員会 | 13日 | 入学者選抜学力試験（後期日程試験）
（14日まで） |
| " | 環境保全委員会 | 17日 | 医療技術短期大学部卒業式 |
| 9日 | 評議会 | 18日 | 附属図書館商議会 |
| " | 教育課程委員会 | 23日 | 修士学位授与式 |
| 10日 | ノルウエー王国 ノルウエー科学技術大学 Emil SPJØTVOLL 学長他5名来学，
総長及び関係教官と懇談 | " | 博士学位授与式 |
| " | ガボン共和国 マスク科学技術大学 Jacques LEBIBI 学長来学，総長及び関係教官と懇談 | 24日 | マレーシア マラヤ大学 Abdullah Sanusi AHMAD 副学長他1名来学，総長及び関係教官と懇談 |
| " | 国際交流委員会 | " | 卒業式 |
| " | 国際交流会館委員会 | 30日 | 評議会 |

訃報

森本 正紀 名誉教授



本学名誉教授森本正紀先生は、平成11年3月18日逝去された。享年86。

先生は、昭和10年京都帝国大学医学部医学科を卒業後、同大学助手、新潟医科大学講師、助教授、新潟大学医学部教授を経て、同39年京都大学医学部教授に就任、同51年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和47年8月から同51年4月京都大学医学部附属病院長、本学評議員を歴任され、大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、高知医科大学副学長、同大学附属病院長を経て、昭和56年7月から同年61年3月まで同大学学長を務められた。

先生は耳鼻咽喉科学、なかでも平衡神経科学及び形成外科学に関する研究において数多くの優れた研

究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、日本平衡神経科学会、日本形成外科学会の発足にあたり、多大な貢献をされた。主な著書に『平衡神経の検査法』『顔面形成外科』『神経耳科検査の実際』『耳鼻咽喉科手術全書』がある。

また、日本耳鼻咽喉科学会、日本形成外科学会、耳鼻咽喉科臨床学会、日本平衡神経科学会、国際平衡神経学会、国際顔面神経外科学会などの会長、理事の要職を歴任された。

これら一連の研究教育活動、学界活動により、昭和54年ドイツ耳鼻咽喉科学会名誉会員に選ばれ、同58年スウェーデン・カロリンスカ病院から名誉医学博士号授与、スウェーデン・ウプサラ大学から名誉学位を授与され、同年石川賞、同61年4月勲二等旭日重光章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院医学研究科）

小林 章 名誉教授



本学名誉教授小林章先生は、平成11年3月23日逝去された。享年89。

先生は、昭和9年京都帝国大学農学部農学科を卒業、同13年京都帝国大学農学部助手、同18年助教授、同23年京

都大学農学部教授に就任し、果樹園芸学講座を担当した。昭和38年から同42年には農学部長として、また、農学部附属農場長、農学部附属亜熱帯植物実験所長として、大学の管理運営に貢献された。昭和48年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、石川県農業短期大学教授に就任し、昭和50年4月から同52年9月まで同大学長を務め、さらに、同52年10月から同58年9月まで奈良教育大学長を務められた。

先生は、果樹園芸学、中でも果樹の栽培生理生態学研究において多くの先駆的な業績を残され、その発展に大きく寄与されるとともに、わが国の果樹農業の技術向上に多大の貢献をされた。特に、適地適作の観点から自然環境要因の影響を究明された功績は顕著で、その研究業績に対し昭和48年に日本農学

賞が授与されている。主な著書に『果樹園芸総論』『文化と果物』『果樹園芸の世界史』等がある。

また、園芸学会、国際園芸学会などにおいて副会長・会長、日本代表委員などの要職を歴任され、学会発展に貢献された。

これら一連の功績により、昭和56年4月勲二等旭日重光章を受けられた。また、平成8年には京都府立植物園の発展に尽力された功績により京都府文化賞特別功労賞を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院農学研究科)

保田 清 名誉教授



本学名誉教授保田 清先生は、平成11年3月23日逝去された。享年85。

先生は、昭和11年京都帝国大学文学部哲学科を卒業し、同大学大学院(文学部)で研究を積まれた後、同25年京都大学文学部講師、同26年分校(教養部)助教授を経て同37年同教授に就任し、倫理学並びに哲学の研究と教育に専念された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、明治鍼灸大学などの教授を歴任された。

先生は、王陽明の倫理想やペンタムとミルの社

会幸福主義の精密な研究など、洋の東西にわたる倫理学及び哲学の諸思想の研究に全力を傾注され、両思想を総合統一した独自の倫理学説を確立され、学術研究の発展に寄与された。主な著書には『王陽明』『道徳哲学の基本』などがある。

また、先生は戦後最初の倫理学会としての関西倫理学会の創設と運営に中心的な役割を果たされ、学会の発展と後進の育成に尽力されるとともに、教科用図書検定調査審議会調査委員としても活躍された。

これら一連の功績により、昭和62年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(総合人間学部)

大澤 濟 名誉教授



本学名誉教授大澤 濟先生は、平成11年3月25日逝去された。享年82。

先生は、昭和15年京都帝国大学理学部動物学科を卒業、同学部副手嘱託、助手の後、大阪市立大学助教授、教授を経て、同46年京都大学霊長類研究所教授に就任、同48年から同50年まで霊長類研究所長を務められた。昭和55年停年により退官され、平成9年京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和55年から平成元年まで近畿大学教授、昭和57年から同62年まで財団法人日本モンキーセンター所長を務められた。

先生は、動物学特に動物生理学と霊長類学の分野

において実験データの分析に統計学的方法論を導入し、我が国におけるデータ解析の先駆者として貢献した。また、動物の温度適応機構の生理学的、生化学的方法による解析を試み、特にニホンザルの寒冷適応に関して顕著な業績を上げ国際的に高い評価を得た。これらの業績は、従来の動物学に新しい学問領域を導入したのものとしてその後の動物生理学の発展に影響を与えた。

また、京都府自然環境保護審議会委員、第13回国際霊長類学会顧問などを歴任された。

これら一連の功績により、平成元年11月勲三等旭日中授章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(霊長類研究所)

光田 寧 名誉教授



本学名誉教授光田 寧先生は、平成11年3月25日逝去された。享年65。

先生は、昭和33年京都大学大学院理学研究科修士課程を修了後、博士課程に進学、同35年に同課程を退学、同年本学理学部助手、同36年本学防災研究所助手、同39年同助教授、同52年同教授に就任し、平成9年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、気象学の中でも地表面付近の風とこれに伴う強風災害に特に興味を持たれ、風の計測法、地形の影響による局地的な強風、竜巻やダウンバーストなどのメソ異常気象、台風に伴う強風災害などに

関して多くの優れた研究業績を残された。また、気候を支配する主要因の一つである海面や地表面と大気間のエネルギー輸送に関して、自ら開発した計測器と観測手法を用いて多くの国際共同研究に参加し、実測データに基づいた現象の解明に大きく貢献された。

学会活動においては、日本気象学会理事、日本風工学会理事などを歴任され、学会の発展に努められた。これらの業績に対して、日本気象学会賞、日本気象学会藤原賞、日本風工学会功績賞を授与された。

先生は40歳代半ばにして腎臓を患われ、以後20年近くに亘り人工透析を受けながら研究教育活動に進進されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(防災研究所)

山村 武雄 名誉教授



本学名誉教授山村武雄先生は、平成11年3月26日逝去された。享年90。

先生は、昭和11年京都帝国大学文学部英文学科を卒業、同大学大学院、昭和高等商業学校講師、海軍機関学校教授、三重県立医科大学予科講師嘱託、同教授を経て、同24年京都大学分校(教養部)助教授、同37年教授に就任し、同47年停年により退官され、同49年京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、帝塚山大学教授、京都女子大学教授、神戸女子大学教授を務められた。

先生の研究分野は、英米文学の多岐にわたるが、中心となるものは、大別して17世紀英詩(特にドライデンとミルトンの研究)とヴィクトリア時代英詩(特にホプキンズとブリッチェズ研究)の二つであ

る。とりわけ、ドライデンの研究はわが国におけるもっとも早い本格的な研究の一つである。イギリスの古典文学の重要性に対する認識を基盤として、ドライデンの風刺詩を大きく叙事詩の伝統の中に位置づけながら、他方で風刺詩のジャンル内の意味付けを行ったところにその独自性がある。また、ホプキンズ研究においては、ホプキンズの詩と中世スコラ哲学及びイエズス会との関連を明らかにしているだけでなく、それを特に20世紀英詩の源流として位置づけているところに意義がある。主な業績には、「ドライデンの風刺詩」、「ドライデンの叙事詩の問題」、「ホプキンズにおける感性の問題」などの論文がある。

これら一連の功績により、昭和55年4月勲三等旭日中授賞を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(総合人間学部)

加藤 新平 名誉教授



本学名誉教授加藤新平先生は、平成11年4月2日逝去された。享年87。

先生は、昭和11年京都帝国大学法学部を卒業後、同法学部助手、助教授を経て、同24年教授に就任し、法理学講座を担当した。昭和32年から2年間評議員、同44年1月から3月まで法学部長、同46年から2年間評議員として、本学の管理運営に多大の貢献をされた。昭和50年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、大阪学院大学法学部教授を務められた。

先生は、法の妥当根拠、国家権力の正統性、価値

相対主義など、法・国家の原理的諸問題について、幅広く深い学識と人間・社会の在り方の鋭い洞察に裏付けられた健全な思弁によって綿密かつ周到な考察をされ、『法哲学概論』をはじめとする多数の著書・論文を公にされ、法学・政治学の諸分野に大きな影響を及ぼされた。また、昭和46年から4年間、日本法哲学会理事長を務められ、わが国の法哲学の発展に指導的な役割を果たされた。

これら一連の研究教育活動により、昭和58年に日本学士院会員に選出され、同59年11月勲二等旭日重光賞を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院法学研究科)

資料

平成11年度入学試験諸統計

1. 募集人員・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	55	199	193 人	192 人	56 人	134 人
	前期理系	55	176	173	172	56	
	後期	20	396	321	191	23	
文学部	前期	190	597	597	589	193	224
	後期	30	399	300	153	31	
教育学部	前期	40	133	133	132	40	60
	後期	20	129	129	82	20	
法学部	前期	330	903	903	890	342	383
	後期	30	490	414	148	43	
経済学部	前期一般	160	508	508	501	165	240
	前期論文	50	234	232	222	52	
	後期	20	538	538	345	26	
理学部	前期	280	970	937	919	281	311
	後期	31	1,073	1,029	691	32	
医学部	前期	90	404	404	392	93	105
	後期	10	213	151	84	12	
薬学部	前期	70	236	236	228	74	85
	後期	10	158	158	108	11	
工学部	前期	883	2,316	2,316	2,286	884	986
	後期	102	1,103	1,004	558	104	
農学部	前期	240	800	800	790	249	308
	後期	60	872	872	542	62	
小計	前期	2,443	7,476	7,432	7,313	2,485	
	後期	333	5,371	4,916	2,902	364	
合計		2,776	12,847	12,348	10,215	2,849	2,836

(注) 合格者数には追加合格者を含む。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果〕

学部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	20人以内	45 人	26 人	13 人	8 人	8 人
経済学部	10人以内	29	15	11	7	7

《工学部・農学部学科別内訳》

学部(学科)・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
工学部	前期	883人	2,316人	2,316人	2,286人	884人	986人
	後期	102	1,103	1,004	558	104	
地球工学科	前期	175	462	462	790	175	195
	後期	20	267	267		20	
建築学科	前期	80	209	209		80	90
	後期	10	94	40		11	
物理工学科	前期	220	627	627		220	245
	後期	25	330	330		25	
電気電子工学科	前期	117	291	291		117	130
	後期	13	145	145		13	
情報学科	前期	81	204	204		81	90
	後期	9	96	72		9	
工業化学科	前期	210	523	523	211	236	
	後期	25	171	150	26		
農学部	前期	240	800	800	790	249	308
	後期	60	872	872	542	62	
生物生産科学科		104	(合格者数) 108 (前期87 後期21)				107
生物機能科学科		110	(合格者数) 113 (前期91 後期22)				113
生産環境科学科		86	(合格者数) 90 (前期71 後期19)				88

2. 合格者 最高点・最低点(総点)調

学部	日 程	満 点	総 点				
			最 高 点	最 低 点	最 低 点		
総合人間学部	前 期	(文 系)	800点	635.83点	530.41点		
		(理 系)	800	636.00	479.00		
	後 期		800	527.00	459.99		
文 学 部	前 期	700	531.00	435.25			
	後 期	700	469.25	452.25			
教 育 学 部	前 期	900	694.58	568.91			
	後 期	900	575.57	482.08			
法 学 部	前 期	750	585.00	461.50			
	後 期	500	390.25	349.00			
経 済 学 部	前 期	(一 般)	800	637.25	504.25		
		(論 文)	1,050	737.75	529.75		
	後 期		950	548.25	450.20		
理 学 部	前 期	650	545.00	369.00			
	後 期	400	305.00	226.00			
医 学 部	前 期	1,250	1,050.75	919.00			
	後 期	1,400	1,015.00	919.25			
薬 学 部	前 期	950	769.91	580.33			
	後 期	950	702.37	588.50			
工 学 部	前 期	1,000	790.41	566.75			
	後 期	-	-	-			
工学部別	前 期 (総 点)		後 期 (総 点)				
	満 点	最 高 点	最 低 点	満 点	最 高 点	最 低 点	
	1,000	地球工学科	733.58点	580.00点	1,100点	847.00点	666.00点
		建築学科 (A選抜)	728.66	591.50	500	269.50	200.50
		建築学科 (B選抜)			650	392.50	293.50
		物理工学科	780.83	599.33	1,100	894.50	707.50
		電気電子工学科	790.41	599.91	1,100	759.75	685.50
		情報学科	768.08	609.33	300	288.00	235.00
工業化学科		713.83	566.75	1,000	853.00	640.00	
農 学 部	前 期	1,050		740.83		622.58	
	後 期	810		587.76		450.90	

(備考) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段...志願者数
下段...入学者数

都道府県	学 部										計	都道府県	学 部										計				
	総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農			総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農					
北海道	人 23 4	人 15 3	人 6 1	人 22 5	人 12 1	人 31 5	人 3	人 4 2	人 39 8	人 13 3	人 168 32	三重	人 6 1	人 7 2	人 4 1	人 17 5	人 19 3	人 40 5	人 10 1	人 8 3	人 64 25	人 24 3	人 199 49				
東	青森	6 3		3		7 2			8 3	4 1	28 9	近畿	滋賀	10 1	22 5	1	23 4	12 4	32 5	4	8 2	85 24	31 6	228 51			
	岩手	3	2		4 2	2	5		2	1	19 2		京都	59 11	131 28	16 4	166 50	164 27	140 17	68 14	55 7	435 116	229 34	1,463 308			
	宮城	7	1 1	1	7 2	5 2	19 4	4 1	2	7 2	53 12		大阪	99 15	142 35	56 16	236 72	209 48	280 44	115 21	67 16	717 202	356 67	2,277 536			
	秋田	5 1	3 1	2	1 1		9 1	1		3 2	26 6		兵庫	54 12	75 20	23 5	182 66	152 31	182 30	108 26	40 9	401 125	175 48	1,392 372			
	山形	3	2	2	1		5 2	3		5 1	4 1		25 4	奈良	27 5	59 12	12 3	109 32	95 25	92 21	50 13	31 12	307 111	121 20	903 254		
東	福島	5 1	3 1	3	3 1	6 3	13	3		14 3	3 1	53 9	中国	和歌山	5 1	8 2	5 1	23 5	25 6	27 6	7 1	7 1	51 11	36 8	194 42		
	関	茨城	13 3	12 1	2 1	9 1	8	39 3	3		48 13	26 2		160 24	鳥取	6 2	10 1	2 1	7 2	6 3	9 3	1		12 4	5 1	58 17	
		栃木	5	7 2		6 3	7	7 1	4	2	14 3	8 2		60 11	島根	1	6 1		3	2	10 3	3	2 1	8 6	1	36 11	
		群馬	8 2	11 1		7 1	5	19 1	2	5 2	15 1	8 2		80 10	岡山	16 1	29 6		20 4	21 4	44 7	8 2	5 1	70 20	28 4	241 49	
		埼玉	15 1	15	9 2	9 1	15 1	66 4	4	10 2	31 6	21 3		195 20	広島	17 1	30 7	7 1	32 11	27 5	31 7	12 1	11 3	56 18	46 8	269 62	
		千葉	30 3	14 2	6	17	27 6	55 2	2	2	32 3	21 2		206 18	山口	6 1	9 2	5	19 4	6 1	30 6	1	1	34 9	10 2	121 25	
	東	東京	91 12	77 11	12 3	60 12	112 17	166 15	56 7	23	123 21	85 8		805 106	徳島	1	3	2	9 2	10	7 1	3 1		9 5	3	47 9	
		神奈川	30 4	26 6	4 2	23 5	34 4	111 15	13 1	8 1	61 9	55 6		365 53	香川	9 1	21 3		29 10	12 1	28 3	10	2	49 16	25 8	185 42	
		新潟	12 3	10 2	6 1	9 2	7 1	17 4		4	20 6	4 1		89 20	愛媛	10 4	11 4	4 2	9 1	22 3	25 3	13 2	3 1	39 12	15 5	151 37	
	中	富山	2 1	7 5		3 1	3 1	9 2	2 1	3	13 3	3 1		45 15	高知	2	8 1	4 1	9 2	3	7 1	6 1	4	13 6	2 2	62 8	
		石川	12 3	9 4		20 8	6 1	19 6	5	6 3	30 13	8 2		115 40	九州	福岡	42 11	23 5	9 4	46 8	45 8	57 8	18 2	13 4	130 38	39 8	422 96
		福井	10	15 3	9 2	14 1	16 3	16 1	5 1	3 1	16 4	17 1		121 17		佐賀	6 2	4 1	2	5	7	13 2	4 1	1	20 7	3 1	65 14
		山梨	1	7		2 1	4 1	6	1	1	3 1	6		31 3		長崎	6 2	3 1		9 2	6	14 5	1	3	17 5	15 1	74 16
長野		3 1	14 4	6 1	10	8 1	29 7	6 2	2	21 4	12 1	111 21	熊本	4		9 4	5 1	12 4	11 3	16 5		3	10 4	10 3	80 24		
岐阜		12 6	17 4	4	26 7	9	36 7	10	9 3	57 25	23 3	203 55	大分	4		10 2		4 3	8 1	12 3	1		11 6	5 1	55 16		
静岡		17	18 5	4 1	16 5	25 5	60 12	7 1	3 1	61 27	24 8	235 65	宮崎	1		2 1		9 2	1	5 1	3	3 1	8 2	5 2	37 9		
愛知		47 14	71 19	22 3	108 29	77 16	139 24	16 4	25 8	198 54	110 24	813 195	鹿児島	9 3		10 3	6 3	10 1	13 2	25 3	14 1	5 1	31 7	16 2	139 26		
													沖縄	6				5 2	2 1	7 2	2		1	4 1	27 6		
													検定	9 2		2	1	20 3	13 1	25 1	5	8	17 1	7	107 8		
												その他	2				1	2 1				4 1		9 2			
												合 計	771 134	996 224	262 60	1,393 383	1,280 240	2,043 311	617 105	394 85	3,419 986	1,672 308	12,847 2,836				

(備考) 外国学校出身者のための選考を除く。

4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学部	志願者						入学者					
	総数	現役 11.3卒	浪人 10.3卒	浪人 9.3卒	浪人 8.3卒	浪人 7.3以前	総数	現役 11.3卒	浪人 10.3卒	浪人 9.3卒	浪人 8.3卒	浪人 7.3以前
総合人間学部	771	477	197	50	14	33	134	76	45	8	2	3
	検 9 他 2	検 2 他 2		検 1	検 3	検 3	検 2				検 1	検 1
		61.9%	38.1%					56.7%	43.3%			
文学部	996	639	272	38	14	33	224	132	79	6	2	5
	検 2	検 1		検 1								
		64.2%	35.8%					58.9%	41.1%			
教育学部	262	164	74	17	4	3	60	34	23	2	1	
	検 1					検 1						
		62.6%	37.4%					56.7%	43.3%			
法学部	1,393	851	443	54	14	31	383	211	161	9	2	
	検 20	検 2	検 3	検 2	検 5	検 8	検 3		検 1	検 1	検 1	
		61.1%	38.9%					55.1%	44.9%			
経済学部	1,280	636	445	100	29	70	240	120	100	11	1	8
	検 13 専 3 他 1	検 1	検 2	検 3	専 1	検 7 専 2 他 1	検 1	検 1				
		49.7%	50.3%					50.0%	50.0%			
理学部	2,043	1,174	518	158	69	124	311	198	91	17	3	2
	検 25 専 1 他 2	検 10	検 7	検 2	検 2	検 4 専 1	検 1				検 1	
		57.5%	42.5%				他 1	他 1	63.7%			
医学部	617	265	119	56	27	150	105	52	37	11	1	4
	検 5	検 1			検 1	検 3						
		42.9%	57.1%					49.5%	50.5%			
薬学部	394	180	118	35	6	55	85	44	38	3		
	検 8	検 3		検 2		検 3						
		45.7%	54.3%					51.8%	48.2%			
工学部	3,419	2,171	959	176	45	68	986	610	347	23	3	3
	検 17 他 4	検 4 他 3	検 3	検 5	検 2 他 1	検 3	他 1	他 1				
		63.5%	36.5%					61.9%	38.1%			
農学部	1,672	912	516	132	39	73	308	166	119	19	2	2
	検 7	検 1	検 3			検 3	検 1		検 1			
		54.5%	45.5%					53.9%	46.1%			
合計	12,847	7,469	3,661	816	261	640	2,836	1,643	1,040	109	17	27
	検 107 専 4 他 9	検 25	検 18	検 16	検 13 専 1 他 2	検 35 専 3 他 1	検 8	検 1	検 2	検 1	検 3	検 1
		58.1%	41.9%				他 2	他 2	57.9%			
									42.1%			

〔外国学校出身者のための選考にかかる入学資格取得年別調〕

学部	志願者						入学者					
	総数	現役 11.3卒	浪人 10.3卒	浪人	浪人	浪人	総数	現役 11.3卒	浪人 10.3卒	浪人	浪人	浪人
法学部	45	43	2				8	8				
	他 45	他 43	他 2				他 8					
		95.6%	4.4%					100.0%				
経済学部	29	26	3				7	6	1			
	他 29	他 26	他 3				他 7	他 6	他 1			
		89.7%	10.3%					85.7%	14.3%			

検...大学入学資格検定合格者 専...高等専門学校出身者 他...その他の入学資格取得者

話題

クラブ紹介

馬術部

体育会馬術部は、昨年、旧帝国大学による国立七大学総合体育大会（七大戦）において3連覇を成し遂げ、創部90周年という節目に彩りを添えることができた。

90年に及ぶ長い歴史の中で、ローマ及びメキシコオリンピックに出場した荒木雄豪氏、ストックホルムオリンピックに出場した川口宏一氏をはじめとして、錚々たる人材を輩出してきた。ノーベル賞受賞者の利根川進氏も、一時、馬術部で活動されている。

我が部は、「愛馬と共に」をモットーに日々練習に励んでおり、それが最大の特徴でもある。既に調教された馬を購入するのではなく、「自馬制」と呼ばれる創部以来の基本理念の下に、教官（監督）、コーチ、そして各部員たちが、自らの手で馬を育て調教するのである。

馬場（約3,000m²）は、北部構内の西端にあり、19の馬房等を有する厩舎及び2階建てのクラブハウス（馬術部管理棟）の施設を利用し活動している。

その厩舎には19頭の馬がいるが、それぞれ個性に溢れており、人に甘えてきたり、餌をねだったり、そして怒ったりと感情も豊かである。そのような馬と接するだけで幸せな気持ちになれる。もちろん、ただ馬に乗って楽しんでいるだけではない。馬術は、馬のコンディションだけでなく、人のコンディションも競技そのものに影響を与えるスポーツなのである。

冬に東京で行われる全日本学生馬術大会出場を我が部の毎年の目標としているが、昨年も2頭 - 3名が出場することができ、強豪揃いの関東勢の中で健闘した。また、ほぼ月1回のペースで実施される競技会でも優れた成績を収めており、去る4月に開催された「七大戦」では4連覇を達成し、今年の中日本学生馬術大会での活躍が大いに期待されている。

なお、馬術部長はOBであり現体育会会長の家森幸男人間・環境学研究科教授である。



平成10年関西学生障害馬術大会

お知らせ

平成11年度創立記念行事音楽会

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記日程のとおり音楽会を開催いたします。本学学生・教職員の来聴を歓迎します。

名 称 熊本マリ(ピアノ) スペインのたより
 演奏者 熊本マリ(ピアノ)
 日 時 6月15日(火) 開場:午後5時30分
 開演:午後6時30分
 終演:午後8時30分(予定)
 会 場 京都コンサ-トホ-ル(京都市左京区下鴨半木町1-26)

プログラム

《第一部》(約40分)

スカルラッティ : 3つのソナタ(未定)
 ファリャ : アンダルシアのセレナード
 : うた
 : 小人の踊り
 : 歌劇「はかなき人生」より スペイン舞曲第1番
 アルベニス : タンゴ 1
 : タンゴ 2
 : スペイン舞曲より 「グラナダ」「カディス」
 「セヴィリア」

休憩(20分間)

《第二部》(約40分)

モンポウ : 3つの変奏曲
 : 歌と踊りより 第6番
 グラナドス : 12のスペイン舞曲より 「ビジャネスカ」
 「サラバンド」「アストゥリアス」
 「オリエンタル」「アンダルーサ」
 ラレグラ : ビバナバラ

演奏者略歴

熊本マリ

東京生まれ。10歳で家族と共にスペインに移り住む。1975~81年、スペイン国立マドリード音楽院でホアキン・ソリアノに師事。79年、スペイン青少年音楽コンクールで優勝。82年、ジュリアード音楽院に入学、サーシャ・ゴロニツキーに師事。85年、英国王立音楽院に入学、C. エルトンに師事。プライベートではアンジー・エステルハージに師事。英国ニューポート国際音楽祭コンクールで入賞。86年、最年少でRecital-Diplomaを授与される。90年、東京音楽社よりエッセイ集「薔薇よ語って」を出版。91年、スペインの作曲家フェデリコ・モンポウ(1893-1987)のピアノ曲全集の録音を完成(世界初)。93年、英国王立音楽院よりめざましい演奏活動に功績のあった卒業生のみにも与えられる資格ARAMを贈られる。キングレコードよりJ.S. バッハシリーズのリリースを開始。94年、プラハでチェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演し、ジルベスターコンサートに出演。95~96年、日本国内でのリサイタル及びオーケストラとの共演やスペインでのリサイタル(ジャパン・ウィーク)を行うなど、精力的に活動を行っている。その後もCDで「タンゴ」、「忘れられた調べ」を出すとともにエッセイ集「音よ輝け」を出版するなど、テレビ・ラジオ・コマーシャル・執筆活動など、多才な活躍で幅広いファンを獲得している。

備 考: 入場無料(学生証または職員証を持参してください。)
 プログラムは当日会場で配布します。定員は1,600名先着順とします。
 演奏中は入場できません。